

空き店舗活用・デマンド交通

富士見町議会は2月7日、商工会理事との第2回情報交換会を開きました。商工会側からの申し入れにより実施し、「地域創生と人口減少への取り組み」をテーマに意見交換しました。

名取元秀会長は「議会との情報交流をもっと活性化したい」とあいさつ。両角鉄男事務局長は事業説明で、駅前商店街の空き店舗対策の拠点として、大丸屋、飯山邸を活用すること、富士見高校の生徒が開設したアンテナショップ「ふじみの森」を大丸屋に移転する構想を明らかにしました。駅前活性化のためなら「貸してもいい」という空き店舗は5件あるとのことでした。

質疑では、富士見駅前駐車場の有料化に伴う商店街への影響について、両角事務局長は「通勤者の利用が是正された。有料化が不便だという声は出ていない」と説明。デマンド交通は「公共性の高い交通機関。運行会議を開き、3カ月ごとに効果を検証する。土曜



あいさつする名取元秀会長(中央)
=商工会館

商工会と情報交換会

日の運行は試行的に行っている」とし、「デマンド交通と通学バスの相互乗り入れなど、工夫する点はあるのでは」との質問には、「以前の調査では、デマンド交通に通学者の利用希望はなかったが今後の課題として取り組みたい」との考えを示しました。

商工会側からは「町には将来ビジョンがない。町づくりは10年先、20年先を見つめながら進めなければいけない」とする意見や、「森のオフィス、スキー場ありきではなく、町の将来を見据え、予算を効果的に使ってほしい」など町政への提案や要望が出されました。

(川合弘人)

議会活動を報告します

「住民目線の議会だより」を目指して



長野県町村議会広報研修会に参加した広報編集委員会の4議員

広報編集委員会

富士見町議会の広報編集委員会は1月31日、安曇野市で開かれた県内町村議会広報研修会に参加しました。講師の議会広報サポーター芳野政明さんは、広報活動の姿勢として、「住民目線で企画、編集すること」を強調。住民の知りたいことに応え、住民の協力で検証することも必要だと語りました。

誌面では、政策決定前の情報や、決定に至る経過を

町村議会広報研修会に参加

積極的に公開することが大事で、「政策情報」を共有することで、「考える住民」になってもらうことができる」と指摘。「理想的な議会だよりは、住民が主権者としての自覚を少しずつ身につけていくことに役立つような誌面作りです」と語りました。

(川合弘人)

議会の議決権 監視と連動を

富士見町議会は1月17日、松本市で開かれた「第2回町村議会改革シンポジウム」に参加しました。県内18町村議



あいさつする飯綱町議会の寺島渉議長

町村議会改革シンポジウムに参加

会が参集。第1部は「議員のなり手不足」、第2部は「政策提言のあり方」をテーマに、事例発表と意見交換が行われました。

第1部で事例発表した飯綱町議会は「人口減少と急速な高齢化が進む中で議員のなり手不足が表面化した」と報告。

その背景として「議会が首長の追認機関になっていった」と分析。さらに「議員報酬は低く、生活給としては十分でない。議員は経済的な魅力がない」と指摘しました。こうした課題を踏まえて議会改革を推進。町長提案議案の否決、修正、不承認を6回経験。質

問3回の制限をなくし、議論の活発化を図ったほか、議員定数・報酬の調査研究特別委員会を設置し「議員報酬を増額する」答申を行いました。このほか、軽井沢町、南箕輪村、松川町などが事例発表を行いました。講師の山梨学院大学大学院法学部、江藤俊昭教授は「行政と同じことをやっているはいけない。住民にとって、行政の提案した事業を達成することが本当にいいのかを考えてほしい。議会は議決権を持っている。議決の重要性を更に進め、それに監視・政策提言に連動させてほしい」と総括。議会改革の取り組みを評価しました。

(川合弘人)